

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境2019年版、省エネルギー・資源効率評価マニュアル2019 (使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0))

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中千種区内山3丁目PRJ	階数	地上29F
建設地	名古屋市中千種区内山3丁目3306番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	576 人
地域区分	6地域	年間使用時間	10,000 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2022年10月20日
敷地面積	1,689 m ²	作成者	
建築面積	956 m ²	確認日	2022年10月20日
延床面積	18,904 m ²	確認者	



ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.4 ★★★★★★☆☆☆☆ ☆: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.8	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.8
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 都心に立地する高い利便性を備えた住居であると共に、各設備等を考慮し環境負荷軽減への取り組みを目指した。	その他 タワーパーキングを道路から後退した位置に配置し、通りに対する圧迫感の軽減を試みている。	
Q1 室内環境 遮音性能は事前に騒音調査を行い、各室の建具遮音性能はT-2とし、その他重量衝撃音の検証を行い、住環境の充実を図っている。	Q2 サービス性能 幅広いニーズに応えられるような基本住戸プランを計画している。住環境向上の為に天井高は2.5m以上確保し、各階の共用部にはゴミ庫を設置している。また、共用部や住戸の内装、及び外装はパースやモックアップ等で検証を行っている。	Q3 室外環境(敷地内) タワー形状の建物の低層部を基壇状のデザインとし、大通りと裏通りのスケールに馴染ませる等、意匠的な検討を行っている。また、可能な限り中高木による緑化を行い、通りに面して壁面緑化を施すことで潤いある街並みの形成に努める。
LR1 エネルギー 住宅性能評価省エネルギー等級4の取得を目指した。	LR2 資源・マテリアル リサイクル資材、エコマークを取得した建材の利用を行っている。また将来的に住戸の模様替えにも対応できるよう配管類の躯体への直接の打ち込み等は行わず、仕上材と躯体も分離可能な計画である。	LR3 敷地外環境 駐車場入り口部のセキュリティラインを敷地内へ車両一台分引き込み、駐車時に車両が滞留しにくいよう配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市千種区内山3丁目PRJ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上			
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 3.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。